

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	耐震管によるループ化を進める事業						担当部	上下水道部
	会計区分	水道事業会計			事業類型	施設整備系	担当課	水道課	
	事業期間	平成12年度以前 ~ 平成30年度以降			担当係	建設係			
	総合計画 分野別計画	主目的	5 都市基盤		24 水の供給		1 耐震管によるループ化を進める		
		副目的	24-3						
	予算区分	款	1	項	1	目	1	大 中	
	根拠法令・個別計画	小牧市上水道耐震化対策基本計画(平成17年度作成)							
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	主要幹線管路の耐震管によるループ化を進め、水道水の安定供給の強化と地震災害発生時の被害抑制を図る。							
	内容 (手段)	<p>◆24年度実施内容</p> <p>○耐震管によるループ化を進める。</p> <p>・主要幹線を耐震管でループ化することで、地震による水道管の被害や給水への影響を軽減することができ、主要幹線が災害で損傷を受けないだけでなく、万一損傷を受けて断水した場合でも他ルートで配水できるようにする。</p> <p>平成24年度末までの整備済延長は約18.6kmで、平成30年度までに目標値約27.6kmを達成するため、毎年約1.5km耐震管を布設する。</p> <p>平成24年度は平成23年度の繰越事業と合わせ約1.0kmを実施しました。</p> <p>◆24年度直接経費の内訳</p> <p>H23繰越事業費の内15節 0円、20節 0円</p> <p>H24決算額の内15節 9,984,450円、20節 155,822,100円</p> <p>合計 165,806,550円</p> <p>その他財源の内訳: 消火栓設置工事負担金 604,310円</p> <p>◆25年度直接経費の内訳</p> <p>H24繰越事業費の内15節 0円、20節 93,000,000円</p> <p>H25予算額の内15節 6,886,000円、20節 274,369,000円</p> <p>合計 374,255,000円</p> <p>その他財源の内訳: 消火栓設置工事負担金 2,638,000円</p>							
	受益者負担	無							

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	236,108	379,293	165,807	374,255	
		正職員	従事者数	人	0.86	0.65	0.92	1.26
			人件費	千円	4,583	3,464	4,903	6,715
		その他職員	従事者数	人	0.22	0.15	0.02	0.12
			人件費	千円	557	380	52	309
	費用合計		千円	241,248	383,137	170,762	381,279	
対前年比		%		158.8	44.5	223.2		
財源	一般財源	千円	5,101	381,534	170,158	378,641		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	236,147	1,603	604	2,638		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	耐震管によるループ化を進める	km	目標	16.2	17.3	18.4
実績				14.8	16.3	17.0	
			目標				
			実績				
成果指標名	単位			H22	H23	H24	H25
			目標	58.5	62.8	66.7	68.0
主要幹線の耐震管によるループ化率	%		実績	53.6	59.1	63.0	
			目標				
			実績				
			目標				

事業の自己評価	平成24年度の実施結果		
	事業の達成状況	平成24年度はループ管の999.0mが完成した。これは、平成21年度より取組んでいる年平均1.5kmのループ管施工計画の目標値を下回っている。	
	事業実施における課題	主要幹線のループ化計画作成時の布設ルートには、詳細調査(地形)によって施工困難な箇所が確認されている。工法変更、ルート変更等ループ化計画の見直しが必要である。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	ループ化全体を完成させないと、事故・災害時の水道水の安定供給ができない。よって、当該事業は計画通り実施していきたい。	
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等) 工法変更を含め、ルート変更等を検討していく。	
平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	主要幹線のループ化によって、地震災害において管の破損による断水が軽減されるばかりでなく、万一の破損においても別ルートからの配水を受けることができるため、長時間断水のリスクが大幅に小さくなる。	
	26年度以降の改善案	早期完成に向け、道路管理者・河川管理者等との事前調整を十分に行い、必要なループ化計画管路の見直しを行う。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。